

第5回 塩竈市長期総合計画審議会 議事録（要旨）

日 時 令和8年9月2日（水） 18:30～19:30

場 所 塩竈市役所 3階北側委員会室

出席委員 柳井委員、草間委員、佐々木委員、高橋（か）委員、大学委員、杉山委員、土井委員、鈴木委員、
大江委員、永野委員、郷家委員、本間委員、大山委員、阿部委員、横内委員
欠席委員 3名

塩 竈 市 副市長、総務部長、市民生活部長、福祉子ども未来部長、産業建設部長、市立病院事務部長、上
下水道部長、教育部長、政策調整管理監

事 務 局 総務部政策課

第5回 塩竈市長期総合計画審議会の概要
1. 開会
2. 会長挨拶
(内容) ○本日の審議会は陸上競技に例えると、第3コーナーを回り、最後の仕上げに入っている段階である。 ○後期基本計画案の内容について、工業製品を製造した際に、ほこりや傷がないかをチェックするような形で、最終的な点検をお願いしたい。
3. 議事
(1) 審議会の振り返り
事務局より資料1に基づいて説明後、質疑応答、意見なし
(2) パブリックコメントの実施結果
事務局より資料2に基づいて説明後、質疑応答、意見なし
(3) 後期基本計画成果指標一覧
事務局より資料3に基づいて説明後、質疑応答、意見交換 (内容) ○成果指標は、今後の進捗状況を判断するための重要なものである。前回策定時も指標の設定については、課題があったため、今回も見直しを行っている。 ○分野1の通し番号1、4、6について、意見はあるか。 →意見なし。 ○分野3のマンホールポンプに関する指標について、意見はあるか。 ○指標名がマンホールポンプ更新の進捗率であれば、単位はパーセントになると思うが、資料では箇所となっている。どのような考え方によるものか。 →確認を行う。(事務局) →マンホールポンプに関する指標については、指標名と単位の整合を事務局で確認する。 ○分野6の通し番号45、48、49について、意見はあるか。 →施設を利用していない方には、不満や事情により利用できない方もいる。利用者満足度では、そのような方の意見が反映されないのではないか。 →今回の指標では、施設を利用した方の満足度を把握し、その中に評価の低い回答があれば、その内容を改善に生かしたいと考えている。(事務局)

○満足度をアンケートで把握する場合、非利用者の意向が反映されにくい。事業評価は、その点に十分注意する必要がある。 →利用者満足度について、非利用者の意向が反映されにくい点に留意しながら、事業評価を行う。(事務局) ○次に、分野7の通し番号51について、意見はあるか。 →意見なし。 ○最後に、分野1から分野8も含め、全体を通して意見はあるか。 ○市の情報発信に関する通し番号53、54について、「市の情報をホームページや広報紙で知る」と回答した割合が低く、それ以上に、「SNSで市の情報を得ている」と回答した方が多いことが気になった。 →アンケートのデータの偏りについての指摘である。LINE等を利用したアンケートでも、同様の課題が生じる可能性がある。成果指標について、今回は資料のとおりとし、今後も経年変化を確認していく。(事務局) ○今年、市民を対象にアンケートを実施したが、設問に「市の広報紙を2か月に1回の発行とすること」への賛否を尋ねる設問があった。その内容を考えると市民全体に周知すべきではないかと感じた。 →広報紙を必要とする市民が一定数いると認識しており、市の情報発信のあり方について適切に取り組んでいく。(事務局) ○分野7の通し番号55について、財政健全化に関する4つの指標については、「なし」という表記で間違いはないか。 →財政健全化に関する4項目のうち、「なし」と記載する項目は、括弧書きで「赤字額なし」または、「将来負担額なし」と記載している。 実質赤字比率等では赤字がある場合に、将来負担比率では将来負担額がある場合に、それぞれの額が算定される。今回の項目については、該当する赤字額または将来負担額がないため、その表記としている。 (事務局)
--

(4) 後期基本計画最終案

事務局より資料4に基づいて説明後、質疑応答、意見交換 (内容) ○26ページの切れ目のない支援について確認したい。 これまでの意見では、シームレスという言葉も使われていた。シームレスと切れ目のない支援のどちらが市民に分かりやすいか。また、本計画内に同じ意味の表現が混在していないか確認したい。 →市民に分かりやすい表現として、「切れ目のない」を使用する。(事務局) ○今回は最終確認の段階である。そのため、委員の皆さんと最後に認識を共有したい。 この計画にはどのようなイメージを持っているか。また、社会環境の変化や状況が見通しにくいことから、計画期間を短くする自治体もある。一方、本市では、実施計画を見直ししながら進行管理することとしている。これらを踏まえて、計画の趣旨ではなく、策定に当たったの考え方や決意を聞きたい。 →社会環境の変化は非常に速く、長期計画のあり方に関する重要な指摘である。 長期総合計画は、本市の最上位計画であり、細かな部分については、その時々状況変化に合わせて見直す場合もあるが、政策の根本的な方向性については、この計画に基づいて一貫して進めていくこととなる。

市長からも、委員の皆様から意見をいただきながら整理してきた考え方やエッセンスを大切にするよう指示を受けている。審議会の意見を含め、計画全体の考え方を各担当部署や関係団体に伝え、施策を着実に実施するとともに、PDCA サイクルにより、評価、総括及び見直しを適切に行っていく。(事務局)

○塩竈らしい 100 の暮らしは、本計画の特徴である。施策の推進に当たり、市民の暮らしを示している点に塩竈市らしさがある。計画全体にそのエッセンスを生かすという認識が非常によいと思う。

→この取組が 5 年後に継承されなければ、審議会は何を残したのかということになる。次の計画にも大切につないでほしい。これは一つのレガシーである。

○成果指標の欄で、本来「指数」と表示されるべき文字が途中で切れており、修正してほしい。

○この計画は、現在の若手職員が中心となって推進していくことになる。若い世代の職員から見て、この計画をやり切ることができると思うか。感想も含めて伺いたい。

→ここに至るまで、審議会委員の皆様との話し合いを重ね、それぞれの担当課の思いも一つずつ取り入れながら、計画を作ってきた。塩竈市は現状、課題も多くあると思うが、本計画はよい形になっていると感じている。

実現できるか、できないかということだけではなく、長期総合計画を指針として、関係者が協力して取り組んでいく姿勢がまず、大切だと考えている。(事務局)

○若い職員から、計画に対する思いと決意を聞くことができた。先輩職員も、若い世代に次のバトンを渡せるよう取り組んでほしい。

○塩竈らしい 100 の暮らしは、施策内容を反映して作成されたものという理解でよいか。

→基本構想を策定した段階で、施策と連携するものとして整理しており、市民が実現したい暮らしを具体的な姿として示したものと捉えている。(事務局)

○市民を巻き込んだワークショップでは、多くの意見が出るが、意見を集めるだけで終わってしまうことが少なくない。また、文章だけで記録しても、後から読まれなくなることがあることから、この点で相当工夫した。

市民から出された意見を絵として残すため、制作を依頼し、何度も修正を重ねて、レトロな雰囲気がある現在のイラストを作成した。

文字だけでは分かりにくい施策について、施策と実際の暮らしとのつながりを示すとともに、計画と連動するものとなっている。

○給食で地元の食材を日常的に味わう暮らしは、学校教育、食育及び地域産業がつながる姿を表している。実施計画になると施策が縦割りになりやすいが、塩竈らしい 100 の暮らしは、施策相互の横のつながりを意識させる構成になっている。

計画を振り返りながら塩竈らしい 100 の暮らしを見ることで、さらに発展的な解釈につながるため、今後も活用してほしい。

○後期基本計画最終案について、必要な修正を行うことを前提に承認することでよいか。細かな文言や体裁については、事務局と会長で取りまとめる。

(5) 答申案

事務局より資料5に基づいて説明後、質疑応答、意見交換

(内容)

○答申案 2 ページの「関係人口と定住人口の拡大」の最後の行について意見がある。市民への周知を引き続きとあるが、ここに「周知の徹底」という表現を加えてほしい。

この計画は、委員や事務局、市職員の知恵を結集し、多くの労力をかけて作成したものである。できる限り多くの市民に浸透させる必要があるため、もう少し強い表現にしてほしい。

→「市民への周知を引き続き」とあるが、より強い表現に修正するという提案である。審議会としての意思を示すものでもあるため、徹底という文言を追加することでよい。具体的な表現については、会長と事務局で調整する。

委員からの総括意見

各委員がそれぞれ総括を行った。

(内容)

○後期基本計画の策定に長期間取り組んだ事務局の皆様へ感謝申し上げる。前期基本計画から関わってきたが、今回の計画は非常に見やすく、分かりやすい内容になったと感じている。

観光・産業の立場から見ると、現在、宮城県内の事業者の倒産または廃業が続いている。人口が減少すれば、必要とされる事業者数も減少するため、やむを得ない。

一方で、新たに立ち上がる事業もある。塩竈市に新たな企業をどのように誘致するか、地域で新しい企業や事業をどのように生み出すかは、行政と民間が連携して進めるべき重要なプロジェクトである。

私自身も、塩竈市の事業者として、非常に身が引き締まる思いである。今後の塩竈市が、さらに豊かで暮らしやすいまちになるよう、市職員の皆様と一緒に取り組んでいきたい。

○これまで審議会に参加し、さまざまな意見を述べてきたが、特に重視しているのは、「何度でも訪れたいまち」という視点である。観光と産業をこれまで以上に結び付ける必要がある。市内で十分に知られていない場所や由緒を持つ歴史資源を、より面白く、分かりやすく紹介し、「塩竈の歴史を巡る小さな旅」のような形で発信することができれば、塩竈市の魅力向上につながるのではないかと。

○塩竈らしい100の暮らしに関心を持っている。「商店街に買い物に行く暮らし」については、足腰が弱くなった方への支援として、近年利用が広がっている移動スーパー等も有効な手段として検討できる。

○「近くにかかりつけのお医者さんがいる暮らし」については、長年通院していた医療機関が閉院することになり、身近な医療機関が次第に減っていることを寂しく、また、心配に感じている。地域で安心して暮らし続けるためには、身近な医療体制を維持することが重要である。

○前期基本計画から長期にわたり審議会委員として参加した。「海と社に育まれる楽しい塩竈」という言葉が、この計画の中心となるものだと思う。この長期総合計画の推進を通じて、市民、市外の皆様にも、「海と社に育まれる楽しい塩竈」が、塩竈市の印象として伝わるようなまちづくりを進めてほしい。

○計画策定に関わる中で、市に対する要望を多く述べてきた。10年後には30代前半となり、体力もあり、一定程度自由に活動できる世代になるため、今後は市に任せるだけではなく、市民として、計画に掲げた目標の実現に向けて力を尽くしていきたい。

○このたび初めて審議会というものに参加した。有識者の方や各分野に関わる専門委員の皆様の意見を聞

く機会を得られたことに感謝している。

○長期総合計画を踏まえ、インフラの老朽化という大きな課題に取り組んでいただきたい。

○前回の審議会で意見を述べた子ども向けの夏祭りについて、子どもたちが楽しめる催しや花火を実施することができた。多くの子どもが参加した思い出に残る夏祭りになった。

観光の分野では、門前町のまち並みづくりをさらに進める余地があると感じている。塩竈らしい景観形成について、今後も取り組んでほしい。

○審議会に参加し、さまざまな意見を述べた。この計画に関わったことで、塩竈市について理解を深めることができ、さらに好きになった。市内の記念行事に参加した時に、多くの方が塩竈を大切に思っていることを実感した。この計画を通じ、塩竈市を好きになる方がさらに増えるような取組を期待している。5年後に、この計画の成果を見ることを楽しみにしている。

○塩竈市の特徴は歴史である。歴史があるからこそ、建物の老朽化などが課題になる一方で、歴史的資源として価値を持つ。学校をはじめ、長い歴史を持つ施設や、地域に数多く残る神社等は、塩竈市の大きな特徴である。

比較対象や評価の仕方を誤ると、古いものをそのまま残すという議論になりかねない。何を大切にするかを、しっかりと考える必要がある。

○塩竈市の歴史を見つめ直すことで、「海と社に育まれる」の「育まれる」部分につながり、その結果として「楽しいまち」になるのではないかと。今後も、学生とともに塩竈市の取組に関わっていきたい。

○今後、重要となることは大きく2つの「徹底」である。

1 つ目は、PDCA サイクルをしっかりと回すことである。社会環境が非常に速く変化する中、評価と改善を徹底して行う必要がある。

2つ目は、市民への周知を徹底することである。今回の総合計画は、委員、事務局、市職員の知恵を結集した成果であり、市民に分かりやすく伝えなければならない。

○他の行政機関では、詳細な報告書だけでなく、概要版や、若者にも分かる簡易版を作成する例がある。
塩竈市でも、市民向けの簡易版を作成して周知を図ってはどうか。

○塩竈らしい 100 の暮らしは、計画内容を具体的にイメージしやすい。循環モデル等と併せて公共施設に展示する、塩竈市にゆかりのある方に SNS で発信してもらうなど、周知方法を工夫してほしい。

○市役所だけではこの計画を実現できないため、市民、関係団体、事業者等が手を取り合い、「チーム塩竈」としてワンチームで進めることが重要である。

○本日の意見を踏まえた答申案及び後期基本計画最終案を、後日、市長へ答申することとする。委員の皆様には、これまで長期総合計画について活発に議論いただき、感謝申し上げる。

また、市職員は直接話すことが難しい立場でもあるが、事務局には、市内のさまざまな意見と審議会の意見を取りまとめていただいた。事務局及び関係職員の尽力に感謝したい。

多くの知恵が集まり、大きな成果が生み出されようとしている。皆様に改めて感謝申し上げる。(会長)

4. 閉会

